

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105644
法人名	社会福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホーム あいじゅ
所在地	松山市来住町1171番地1
自己評価作成日	平成 28年 10月 31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 11月 29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

月に1回程度で外食(回転寿司)に行く 毎朝皆で体操を行う

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本年8月に現在の所在地に移転した事業所は、広い敷地内に法人の入所施設や通所施設が併設されている。通所施設側のロビーには観音様が祀られ利用者が職員と一緒に参拝したりしている。屋外には足湯も設置されている。毎朝、全員で体操をしたり朗読や唄を歌う時間を大切にしている。少しでも楽しく過ごしてもらえたらという気持ちから「あなたの夢叶えます」というプロジェクトがあり、利用者一人ひとりと話をして夢や希望について聞き、家族の協力も得ながら実際に叶えるようにしている。また、本人や家族からどのように生活してきたか、どんな思いを持っているかなどを聞き取り「想いマップ」として模造紙に書くなど、より利用者を理解するよう努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム あいじゅ

(ユニット名) 愛ユニット

記入者(管理者)
氏名 山本 多恵子

評価完了日 平成 28年 10月 30日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域との交流や安全・安心な暮らしが送れることを目標にして、地域の人たちとのふれあい等のコミュニケーションを大切に、笑顔で明るい暮らしが送れるよう支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 施設全体の理念を踏まえて、各ユニットで職員全員で利用者のことを思いながら考えた理念「笑顔で仲よくまあるい心」「あわてず おこらず 心穏やかに」をリビングに掲示し職員は笑顔で業務に励んでおり、利用者との信頼関係を築くと共に利用者も穏やかに生活できている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 南保育園の園児の来訪や、クリスマス会等に参加し交流を深めている。来住町に来てからは2ヶ月に1回の来訪となる。お誕生会には地域の方に来ていただき、カラオケを楽しんだりしている。推進会の時にも来て頂き、なじみの関係が築いていけるよう支援を行った。</p> <p>(外部評価) 移転した事業所の見学会には地域住民も大勢見学に来たり、芋煮会では地域住民やボランティアなどの来訪もあり地域にも注目されている。自治会の役員改選が11月にあるため、今後新しい役員の方々や民生委員の方と関係作りをしていく予定である。地域のデイサービス利用者との交流もしているが、今後は保育園等との新たな関係を築いていきたいと考えている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 推進会で認知症・認知症予防について講師の先生を招き、勉強会にも一緒に参加していただいたり、予防教室にも積極的に参加している。 ひまわり喫茶(オレンジカフェ)を開催して、一人でも多くの人に理解していただくよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催している。近況報告・取り組みを報告している。テーマに添って話し合い、意見やアドバイスが得られている。できるだけ職員にも多く参加してもらっているが、参加できない職員にも周知徹底し、サービスの向上に努めている。	8月に移転したばかりであり、施設全体の周知は少しずつできてきていると思うが、地域の方々や自治会、民生委員の方々に運営推進会議への参加によって事業所の特性や地域での役割について理解してもらい、今後の新たな関係作りの構築に期待したい。
			(外部評価) 移転前は家族や地域の方、民生委員、地域包括支援センター、職員などが参加して開催されていた。7月には10年間の事業所と地域との交流の思い出を語る会をテーマに運営推進会議を開催している。これまで地域の方の興味のあるテーマで勉強会も行ってきたが、認知症や成年後見制度など今後は来住町でも同じように多くの地域の方に参加してもらえるよう周知していきたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 推進会議に参加していただき、情報を共有できるよう努めている。	
			(外部評価) 市の担当課とは、わからないことなどがあれば気軽に相談できるような関係ができています。また、市担当者や地域包括支援センター職員は、運営推進会議に参加し研修会や介護保険などの新たな情報の提供等をしてもらうなど連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員全員で身体拘束しないケアに取り組んでいる。身体拘束などの行為を正しく理解するために研修・勉強会に参加している。特に利用者様へのきつい言葉にならないよう、月間目標にも「言葉遣いに気をつけよう」を掲げ、皆で気を付けている。	
			(外部評価) 月間目標を「言葉遣いに気をつけよう」とし、口調や態度が命令や抑制にならないように声かけに注意している。防犯のため玄関やユニットへの通用口等への扉はオートロックとなっているが、支障のないよう職員が利用者同行し出入りしている。筋力低下等のためベッドから転落する危険性がある利用者には、安全性を考慮しセンサーマットを敷くなど対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修や勉強会に参加し、一人ひとりが正しく理解している。月間目標で「言葉遣いに気をつけよう」を掲げ、言葉での虐待にならないよう皆で注意しあっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用者様の中に青年後見人制度を利用されている人もいる。松山市社会福祉協議会の方にお願ひし、推進会のときに皆で勉強会を開き、少しでも理解できるよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前に一度見学していただき、気に入っていただいてから契約書・重要事項についての説明を行い、理解・納得していただいた上で契約している。また、改定等の際はその都度説明し、文書で同意書を頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関ホールに苦情箱を設置している。苦情が寄せられた場合には、マニュアルに沿って速やかに対応・回答を行っている。面会時などに意見や要望を聞くようにしている。	
			(外部評価) 玄関入口に意見箱を設置しているが、意見や苦情等が入ることではない。洗濯の際の洗剤の使い方や洋服の整理の仕方など、利用者からの要望には、その都度対応している。グループホーム便りの利用者の生活状況等情報を充実させるなどし、家族に報告していきたいと考えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会で職員の意見を聞き、必要があれば主任会等で施設全体で話し合えるような仕組みになっている。	
			(外部評価) 職員と管理者は気軽に気づいたことや意見を言い合える関係である。各ユニットごとにノートを置いてあり、意見や気づいたことを記録するようにしている。職員から意見や提案等あれば、月1回施設長や管理職参加の主任会等で対応するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 人事考課制度に従い、評価を行い、一人ひとりの個性や能力の把握に努めると同時に、職員の処遇改善に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内研修や外部研修への参加を促進し、研修後は事業所内において伝達研修を実施するよう取り組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡会での勉強会に参加し、サービスに活かせるよう努めている。 今後、地域のグループホーム交流会に参加し、協力関係を築くよう取り組みたい。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 見学の段階からゆっくと話し合いができるよう時間を持ち、徐々に本人の思いや不安をくみ取れるよう努めている。 安心して暮らせるよう寄り添い、コミュニケーションを大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族様との連絡を密にすることにより、家族の思いや不安、要望を聞き出し、それに沿って職員が尊厳を守りながらいい関係ができるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に本人・家族様の希望を聞き、様々なサービスの選択肢を提供し、一緒に考え対応ができるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) おやつ作りや洗濯物干し・洗濯物をたたんだり等、少しでも役割が持てるよう支援を行っている。一緒にすることにより職員が学ぶこともある。また、一緒にドライブや外食に出かけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 孫の運動会に行ったり、家族と一緒に家に帰宅されている。推進会や共同作品・夏祭りに参加していただけるよう案内したり、できるだけ家族との絆が切れないよう支援を行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 南保育園との交流や地域の方にお誕生会に来ていただいたりしている。 また、行きたい場所や思い出の場所を訪れることができるよう支援をし、なじみの人や場所との関係が途切れないよう支援を行っている。 (外部評価) 移転のため親交のあった保育園との距離は離れたが、2か月に1回は保育園から訪問があり、利用者も楽しみにしている。家族等の面会は以前と同様にあり、必要な物を買って来てくれたり、一緒に買い物に出かけたりしている。今後は、移転前の馴染みの継続と、新たな地域での関係を構築していきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりが食堂やリビングで安心して座る場所が決まっています。トラブルになることは少ない。トラブルになりそうになった時は職員が中に入ったり、席を替えたりして様子を見ている。ティータイムの時は皆でお話しながら楽しい時間をすごしている。	
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院のため、退去されたご利用者様については病院の方に面会に行ってお話したり、家族様とも何かあればご相談下さい。とお話している。 家族様の中には退去された後でもボランティアで毎月1回のミニコンサートで楽器の演奏に来ていただいている。また、推進会に地域の一員として参加していただいている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の思いマップを作成し、職員も共有している。本人の思いを大切にし、プランに取り入れている。「貴方の夢、叶えます」でも一人ひとりの思いを大切に家族様の協力もいただいて実現している。 (外部評価) 「あなたの夢叶えます」と題して、本人や家族から行きたい所、したいことなど聞くようにしている。模造紙に本人の希望や思い、どのような生活をしてきたかなど、写真や絵も取り入れ家族等の協力も得ながら「思いマップ」を作成している。「思いマップ」は利用者の了解を得て居室の壁に貼っており、利用者や職員とのコミュニケーション機会の増加や利用者の思いの確認につながっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の面談のとき、本人や家族様に生活歴や暮らし方、生活環境などこれまでのサービス利用の経過を聞いたり、利用していた事業所からの情報提供をお願いし、共有している。少しでも多くの情報を把握できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの利用者に関わる中で心身状態や精神状態を24時間シートに書き入れ、職員同士で情報を共有している。毎日バイタルチェックを行い、健康面に気をつけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人やご家族様との話しあいをして、一人ひとりの思いマップを作成し、そこからプランにつなげている。プランの評価も1ヶ月ごとに行い、各ユニットで話し合っている。本人の希望に沿ったプランを作成し、実施している。	
			(外部評価) 24時間生活変化シートを活用し1か月ごとに記録のチェックを行っており、利用者の変化に気づけるよう配慮している。介護記録については、1か月ごとのカンファレンスの時に職員間で確認し共有している。介護計画の見直しは3か月ごとに行っており、管理者は介護計画を確認し職員からの意見やアイデアなども聞き、介護計画について助言を行い内容の充実に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) センター方式、24時間シートを使って、日々の様子や精神状態を記録している。職員間で共有しながら、プランの評価も1ヶ月ごとに行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 外出や医療機関の受診等は、家族様の状況に合わせて行き、必要な場合はホームの方で対応できるよう支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の民生委員の方や保育園の園児と定期的に交流する機会を持っています。 また地域のボランティアやご利用様のご家族や知人の方にお願ひして、ミニコンサートや慰問などの協力をいただいています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご本人やご家族様の希望を大切にし、かかりつけ医へはホームの看護師から日頃の状態の報告をするとともに、かかりつけ医の指示が適切に実践できるよう連携をとっている。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望を尊重し、入居前からのかかりつけ医が定期的に訪問診療や病院での診察を行うなど支援していた。移転により、かかりつけ医が変更になった利用者もいるが、家族や職員が同行し受診している。事業所の看護師が不在の時に何かあれば、併設施設の看護師の協力を得ることができるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 介護職員はホームの看護師・併設の他事業所の看護師と連携をとりながら、健康管理を行っている。(24時間の体制が取れている)何かあれば主治医に相談し早めの受診をするよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院先の病院に面会に行ったり、家族様の方より状態の連絡がある。退院が近くなると病院と連絡を取り合っている。本人にも皆が待っていることを伝え、安心して入院生活が送れるよう支援を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時にホームでのターミナルケアについて説明した上でご本人やご家族の意向にそった支援をしている。主治医と連携し、ご家族様に悔いが残らないよう努めている。	
			(外部評価) 「看取りに関する指針」や「重度化した場合における対応の指針」を作成している。職員は定期的に話し合いや研修を受けて、利用者や家族の思いを受けとめ支援する体制はできている。重度化し終末期になった利用者の家族には、ターミナルの説明や今後の支援内容について説明しているが、かかりつけ医や併設施設の医師との連携もあり安心感がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年法人内での緊急時の処置の方法を消防署の方から指導を受けたり、勉強会を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、併設の事業所と一緒に防火・避難訓練を行っている。グループホーム単独での訓練も年2回行っている。 (外部評価) 施設全体で避難訓練を実施しており、訓練により避難する順番や経路など問題点が明らかになり、今後マニュアルの見直しなど検討していきたいと考えている。事業所の横に川があるため、水害対策や夜間の災害想定訓練も引き続き実施したいと考えている。また、備蓄品は施設全体で管理しており、災害時の備えは万全である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ご利用者様一人ひとりの人格を尊重し、認知症になっても尊厳を失うことのないよう努めている。月間目標に「言葉遣いに気をつけよう」を掲げ、温かい声かけを心掛けている。入浴時も一人ずつ入っていただき、プライバシーの保護にも努めている。 (外部評価) 尊厳を守ってケアするように努めている。収集癖や興奮などの症状のある利用者に対して、言葉かけなど対応に苦慮していたが、職員の月間目標として「言葉遣いに気をつけよう」を掲げて、一人ひとりの利用者の状態やその時の様子によって対応するよう心がけている。月間目標は、職員全員が達成できれば変更していく予定である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で、できるだけ本人の気持ちを大切にしている。本人の思いや希望を会話の中でみつけ、あくまでも本人が納得して決めていただくように支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースを大切にしている。食事の後、ベッドで休みたい人、テレビやパズルをされる人、その人の気持ちを大切にしている。ドライブ・外出に出かける時も本人の希望を聞いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 美容室には2ヶ月に1回程度利用している。毎朝化粧されたり、アクセサリを身につけられる人、毎日洋服を変えられる人もおられます。また、毎月1回メイクセラピーの日を決めたり、あまり関心のない人にも身だしなみには気をつけられるよう支援を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は直営の厨房で用意していますが、ご飯・味噌汁やお吸い物、カレー、おやつはホームの方で作っています。おやつ作りは一人でも多くの人に手伝っていただき、役割が持てるよう支援を行っています。気分転換もかねて外出にも出かけています。	
			(外部評価) 食事は、施設全体の厨房で管理栄養士の献立で調理しており、ご飯や汁物、カレー、おやつなどは事業所で作っている。季節の催しやクリスマス会などの行事食も取り入れ、食べたい物や好みの物などの希望を聞き、回転寿司など外食を楽しんでもらえるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ケアチェック表で個々の食事量・水分量を把握している。食事量が減った人には食事形態を変えたり、主治医・家族様と相談しながら支援を行っている。水分量の少ない人は、飲み物の種類を替え、プランにあげて少しでもたくさん飲んでいただくよう支援を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 起床時や毎食後の口腔ケアを行い、終わったらコップと歯ブラシを良く洗浄し、乾燥機にかけて感染予防に努めている。歯や入れ歯の調子が悪いときは訪問歯科を利用している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄リズムを把握し、声かけを行っている。気持ちの良い排泄がトイレで行えるよう自立に向け支援を行っている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの状態に合わせて、なるべく自然に排泄できるよう支援している。トイレ誘導時には利用者に対する言葉遣いに十分気をつけている。おむつを使用していても日中はトイレで排泄できるよう努めている。夜間のポータブルトイレの使用や、便秘対策として水分量をこまめにチェックするなど配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) チェック表で排便を確認している。便秘の人には水分量（目標1500cc）、歩行練習、朝の体操等をプランに入れ取り組んでいる。他の利用者の方も水分・体操・歩行練習を行い、予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 健康状態に異常のない方はいつでも入浴ができるようにしている。個浴なので職員が見守り、介助を行いゆっくりお話ししながら入浴をしていただいている。 入浴を嫌がる人は、違う日にしたり時間帯を変更するなどご本人様の気持ちを大切に、入浴をしていただいています。 入浴中はくつろいでいただけるよう支援をおこなっている。	
			(外部評価) 週2回入浴できるよう支援しており、希望があれば3回の入浴も可能である。入浴介助は1対1で対応し、普通浴槽でゆったり過ごしてもらえよう努めている。入浴を嫌がる利用者には、時間をおいて声をかけたり、トイレに行った時に入浴を勧めるなどの工夫をし、無理強いしない入浴支援ができています。利用者の身体状態に応じシャワー浴やリフト浴での対応も行うなどの配慮もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の希望で昼寝をしたい方は休んでもらっています。夜もテレビが観たい人は21時ごろまで観て、それから休まれる方もいらっしやいます。夜間は皆さん良く休まれています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬については主治医や看護師から指示があったり、申し送りノート等で確認し、周知徹底している。薬情もいつでも見られるようにしている。誤薬・飲み忘れがないよう2人でチェックを行い、本人にも確認をしてもらっている。最後にもう一人が再度チェックを行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の生活の中で自分でできることはしていただき、少しでも自分の役割が持っているよう支援を行っている。外食・ドライブ等外出の機会を多くとり、また共同作品展に向け工作・習字・生花クラブ等に取り組み、気分転換を図っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出の機会を出来るだけ多く取り入れたり、家族様の協力で家に帰られたり、食事に行けるよう支援を行っている。「貴方の夢、叶えます」で、一人ひとりの気持ちを聞きながら家族様の協力もあり、一つ一つ実現している。 (外部評価) 紅葉狩りや花見など月2回利用者に外出を楽しんでもらえるよう支援している。施設全体で送迎車や運転者がいるため、利用者のほとんどが外出できている。それ以外にも希望があれば、買い物や外食等その都度対応したり、家族とお墓参りや外食に出かけることもできている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一緒に買い物に行き、自分で支払いが出来るよう支援を行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人希望で家族に電話をかけられる場合は取り次ぎを行ったり、家族にハガキを出したいと希望がある方には支援を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関・廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関・ダイニングルームには家庭的で、落ち着いた雰囲気になるよう配慮している。さりげなく季節感を感じられるような植物や手作りの飾りを身近に置いている。入居者が集まりやすいようにソファ等を置いて、皆でテレビやお茶の時間を楽しんでいる。</p> <p>(外部評価) 事業所の玄関を入ると両サイドにユニットがあり、リビングは広くゆったりしており、利用者はソファに座ったり、テーブル席に着いたり自由に過ごしている。カラオケの好きな利用者が多いため曲数も充実させていたり、屋外に施設全体のジャグジー付きの足湯や、トイレには手すりや前傾姿勢がとれるレストテーブルを設置するなど配慮している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ダイニングルームでは自分の安心できる場所が決まっている。テレビを見たり、脳トレをしたり家族様との会話を楽しめるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 今まで使っていた寝具や家族の写真等持ち込んでいただき、少しでも家庭的でなじみのあるものがあることによって安心して暮らしていただけるよう工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 準備中や移転後しばらくは落ち着かず居室がわからなかったり、夜眠れない利用者もいたが、出入り口に花の名前を掲げて居室がわかるように工夫するなどし、今は落ち着き夜も眠れるようになっている。居室はベッドやエアコン、クローゼット、整理ダンス、洗面台等が設置されている。また、利用者一人ひとり使い慣れた家具や懐かしい家族の写真などを持ち込み、居心地の良い空間となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者様にはできることはしていただくよう声かけを行っている。建物内部は手すりがあり、段差がないので安全に歩行することができる。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105644
法人名	社会福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホーム あいじゅ
所在地	松山市来住町1171番地1
自己評価作成日	平成28年11月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 11 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

午前中のリハビリ体操・唄・朗読・脳トレ・歩行練習は少しでも自立支援に向けてずっと行っています。ホーム内では出来る事はしていただき、少しでも一人ひとり役割が持てるよう支援を行っております。南保育園との交流は継続しており、東方町のころは毎月1回来訪していただいておりますが、来住町に引っ越してからは2ヶ月に1回となりましたが、楽しく交流させていただいております。出来るだけ外出の機会を多くとり、ドライブ・外食等にも出かけています。また、「貴方の夢、叶えます」では一人ひとりの想いを聞き実現していております。その人らしさを大切に安心して笑顔のある暮らしができるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本年8月に現在の所在地に移転した事業所は、広い敷地内に法人の入所施設や通所施設が併設されている。通所施設側のロビーには観音様が祀られ利用者が職員と一緒に参拝したりしている。屋外には足湯も設置されている。毎朝、全員で体操をしたり朗読や唄を歌う時間を大切にしている。少しでも楽しく過ごしてもらえたらという気持ちから「あなたの夢叶えます」というプロジェクトがあり、利用者一人ひとりと話をして夢や希望について聞き、家族の協力も得ながら実際に叶えるようにしている。また、本人や家族からどのように生活してきたか、どんな思いを持っているかなどを聞き取り「想いマップ」として模造紙に書くなど、より利用者を理解するよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム あいじゅ

(ユニット名) 寿ユニット

記入者(管理者)

氏名 大栄 幸枝

評価完了日

平成 28年 10月 30日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域との交流や安全・安心な暮らしが送れることを目標にして、地域の人たちとのふれあい等のコミュニケーションを大切に、笑顔で明るい暮らしが送れるよう支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 施設全体の理念を踏まえて、各ユニットで職員全員で利用者のことを思いながら考えた理念「笑顔で仲よくまあるい心」「あわてず おこらず 心穏やかに」をリビングに掲示し職員は笑顔で業務に励んでおり、利用者との信頼関係を築くと共に利用者も穏やかに生活できている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 南保育園の園児の来訪や、クリスマス会等に参加し交流を深めている。来住町に来てからは2ヶ月に1回の来訪となる。お誕生会には地域の方に来ていただき、カラオケを楽しんだりしている。推進会の時にも来て頂き、なじみの関係が築いていけるよう支援を行った。</p> <p>(外部評価) 移転した事業所の見学会には地域住民も大勢見学に来たり、芋煮会では地域住民やボランティアなどの来訪もあり地域にも注目されている。自治会の役員改選が11月にあるため、今後新しい役員の方々や民生委員の方と関係作りをしていく予定である。地域のデイサービス利用者との交流もしているが、今後は保育園等との新たな関係を築いていきたいと考えている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 推進会で認知症・認知症予防について講師の先生を招き、勉強会にも一緒に参加していただいたり、予防教室にも積極的に参加している。 ひまわり喫茶（オレンジカフェ）を開催して、一人でも多くの人に理解していただくよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催している。近況報告・取り組みを報告している。テーマに添って話し合い、意見やアドバイスが得られている。できるだけ職員にも多く参加してもらっているが、参加できない職員にも周知徹底し、サービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 移転前は家族や地域の方、民生委員、地域包括支援センター、職員などが参加して開催されていた。7月には10年間の事業所と地域との交流の思い出を語る会をテーマに運営推進会議を開催している。これまで地域の方の興味のあるテーマで勉強会も行ってきたが、認知症や成年後見制度など今後は来住町でも同じように多くの地域の方に参加してもらえるよう周知していきたいと考えている。	8月に移転したばかりであり、施設全体の周知は少しずつできてきていると思うが、地域の方々や自治会、民生委員の方々に運営推進会議への参加によって事業所の特性や地域での役割について理解してもらい、今後の新たな関係作りの構築に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 推進会議に参加していただき、情報を共有できるよう努めている。	
			(外部評価) 市の担当課とは、わからないことなどがあれば気軽に相談できるような関係ができています。また、市担当者や地域包括支援センター職員は、運営推進会議に参加し研修会や介護保険などの新たな情報の提供等をしてもらうなど連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員全員で身体拘束しないケアに取り組んでいる。身体拘束などの行為を正しく理解するために研修・勉強会に参加している。特に利用者様へのきつい言葉にならないよう、月間目標にも「言葉遣いに気をつけよう」を掲げ、皆で気を付けている。	
			(外部評価) 月間目標を「言葉遣いに気をつけよう」とし、口調や態度が命令や抑制にならないように声かけに注意している。防犯のため玄関やユニットへの通用口等への扉はオートロックとなっているが、支障のないよう職員が利用者同行し出入りしている。筋力低下等のためベッドから転落する危険性がある利用者には、安全性を考慮しセンサーマットを敷くなど対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修や勉強会に参加し、一人ひとりが正しく理解している。月間目標で「言葉遣いに気をつけよう」を掲げ、言葉での虐待にならないよう皆で注意しあっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用者様の中に青年後見人制度を利用されている人もいる。松山市社会福祉協議会の方にお話しし、推進会のときに皆で勉強会を開き、少しでも理解できるよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前に一度見学していただき、気に入っていただいてから契約書・重要事項についての説明を行い、理解・納得していただいた上で契約している。 また、改定等の際はその都度説明し、文書で同意書を頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関ホールに苦情箱を設置している。苦情が寄せられた場合には、マニュアルに沿って速やかに対応・回答を行っている。面会時などに意見や要望を聞くようにしている。	
			(外部評価) 玄関入口に意見箱を設置しているが、意見や苦情等が入ることはない。洗濯の際の洗剤の使い方や洋服の整理の仕方など、利用者からの要望には、その都度対応している。グループホーム便りの利用者の生活状況等情報を充実させるなどし、家族に報告していきたいと考えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会で職員の意見を聞き、必要があれば主任会等で施設全体で話し合えるような仕組みになっている。 (外部評価) 職員と管理者は気軽に気づいたことや意見を言い合える関係である。各ユニットごとにノートを置いてあり、意見や気づいたことを記録するようにしている。職員から意見や提案等あれば、月1回施設長や管理職参加の主任会等で対応するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 人事考課制度に従い、評価を行い、一人ひとりの個性や能力の把握に努めると同時に、職員の処遇改善に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内研修や外部研修への参加を促進し、研修後は事業所内において伝達研修を実施するよう取り組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡会での勉強会に参加し、サービスに活かせるよう努めている。今後、地域のグループホーム交流会に参加し、協力関係を築くよう取り組みたい。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 見学の段階からゆっくと話し合いができるよう時間を持ち、徐々に本人の思いや不安をくみ取れるよう努めている。安心して暮らせるよう寄り添い、コミュニケーションを大切にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族様との連絡を密にすることにより、家族の思いや不安、要望を聞き出し、それに沿って職員が尊厳を守りながらいい関係ができるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に本人・家族様の希望を聞き、様々なサービスの選択肢を提供し、一緒に考え対応ができるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) おやつ作りや洗濯物干し・洗濯物をたたんだり等、少しでも役割が持てるよう支援を行っている。一緒にすることにより職員が学ぶこともある。また、一緒にドライブや外出に出かけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 孫の運動会に行ったり、家族と一緒に家に帰宅されている。推進会や共同作品・夏祭りに参加していただけるよう案内したり、できるだけ家族との絆が切れないよう支援を行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 南保育園との交流や地域の方にお誕生会に来ていただいたりしている。 また、行きたい場所や思い出の場所を訪れることができるよう支援をし、なじみの人や場所との関係が途切れないよう支援を行っている。 (外部評価) 移転のため親交のあった保育園との距離は離れたが、2か月に1回は保育園から訪問があり、利用者も楽しみにしている。家族等の面会は以前と同様にあり、必要な物を買って来てくれたり、一緒に買い物に出かけたりしている。今後は、移転前の馴染みの継続と、新たな地域での関係を構築していきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりが食堂やリビングで安心して座る場所が決まっています、トラブルになることは少ない。トラブルになりそうになった時は職員が中に入ったり、席を替えたりして様子を見ている。ティータイムの時は皆でお話しながら楽しい時間を過ごしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院のため、退去されたご利用者様については病院の方に面会に行ってお話したり、家族様とも何かあればご相談下さい。とお話している。 家族様の中には退去された後でもボランティアで毎月1回のミニコンサートで楽器の演奏に来ていただいている。また、推進会に地域の一員として参加していただいている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の思いマップを作成し、職員も共有している。本人の思いを大切に、プランに取り入れている。「貴方の夢、叶えます」でも一人ひとりの思いを大切に家族様の協力もいただいて実現している。 (外部評価) 「あなたの夢叶えます」と題して、本人や家族から行きたい所、したいことなど聞くようにしている。模造紙に本人の希望や思い、どのような生活をしてきたかなど、写真や絵も取り入れ家族等の協力も得ながら「思いマップ」を作成している。「思いマップ」は利用者の了解を得て居室の壁に貼っており、利用者とのコミュニケーション機会の増加や利用者の思いの確認につながっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の面談のとき、本人や家族様に生活歴や暮らし方、生活環境などこれまでのサービス利用の経過を聞いたり、利用していた事業所からの情報提供をお願いし、共有している。少しでも多くの情報を把握できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの利用者に関わる中で心身状態や精神状態を24時間シートに書き入れ、職員同士で情報を共有している。毎日バイタルチェックを行い、健康面に気をつけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人やご家族様との話しあいをして、一人ひとりの思いマップを作成し、そこからプランにつなげている。プランの評価も1ヶ月ごとに行い、各ユニットで話し合っている。本人の希望に沿ったプランを作成し、実施している。 (外部評価) 24時間生活変化シートを活用し1か月ごとに記録のチェックを行っており、利用者の変化に気づけるよう配慮している。介護記録については、1か月ごとのカンファレンスの時に職員間で確認し共有している。介護計画の見直しは3か月ごとに行っており、管理者は介護計画を確認し職員からの意見やアイデアなども聞き、介護計画について助言を行い内容の充実に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) センター方式、24時間シートを使って、日々の様子や精神状態を記録している。職員間で共有しながら、プランの評価も1ヶ月ごとに行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 外出や医療機関の受診等は、家族様の状況に合わせて行き、必要な場合はホームの方で対応できるよう支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の民生委員の方や保育園の園児と定期的に交流する機会を持っています。 また地域のボランティアやご利用者様のご家族や知人の方において、ミニコンサートや慰問などの協力をしていただいています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご本人やご家族様の希望を大切にし、かかりつけ医へはホームの 看護師から日頃の状態の報告をするとともに、かかりつけ医の指 示が適切に実践できるよう連携をとっている。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望を尊重し、入居前からのかかりつけ医が定期 的に訪問診療や病院での診察を行うなど支援していた。移転によ り、かかりつけ医が変更になった利用者もいるが、家族や職員が 同行し受診している。事業所の看護師が不在の時に何かあれば、 併設施設の看護師の協力を得ることができるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員はホームの看護師・併設の他事業所の看護師と連携をと りながら、健康管理を行っている。(24時間の体制が取れてい る)何かあれば主治医に相談し早めの受診をするよう支援してい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院先の病院に面会に行ったり、家族様の方より状態の連絡があ る。退院が近くなると病院と連絡を取り合っている。本人にも皆 が待っていることを伝え、安心して入院生活が送れるよう支援を 行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時にホームでのターミナルケアについて説明した上でご本人 やご家族の意向にそった支援をしている。主治医と連携し、ご家 族様に悔いが残らないよう努めている。	
			(外部評価) 「看取りに関する指針」や「重度化した場合における対応の指 針」を作成している。職員は定期的に話し合いや研修を受けて、 利用者や家族の思いを受けとめ支援する体制はできている。重度 化し終末期になった利用者の家族には、ターミナルの説明や今後 の支援内容について説明しているが、かかりつけ医や併設施設の 医師との連携もあり安心感がある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年法人内での緊急時の処置の方法を消防署の方から指導を受けたり、勉強会を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、併設の事業所と一緒に防火・避難訓練を行っている。グループホーム単独での訓練も年2回行っている。 (外部評価) 施設全体で避難訓練を実施しており、訓練により避難する順番や経路など問題点が明らかになり、今後マニュアルの見直しなど検討していきたいと考えている。事業所の横に川があるため、水害対策や夜間の災害想定訓練も引き続き実施したいと考えている。また、備蓄品は施設全体で管理しており、災害時の備えは万全である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ご利用者様一人ひとりの人格を尊重し、認知症になっても尊厳を失うことのないよう努めている。月間目標に「言葉遣いに気をつけよう」を掲げ、温かい声かけを心掛けている。入浴時も一人ずつ入っていただき、プライバシーの保護にも努めている。 (外部評価) 尊厳を守ってケアするように努めている。収集癖や興奮などの症状のある利用者に対して、言葉かけなど対応に苦慮していたが、職員の月間目標として「言葉遣いに気をつけよう」を掲げて、一人ひとりの利用者の状態やその時の様子によって対応するよう心がけている。月間目標は、職員全員が達成できれば変更していく予定である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で、できるだけ本人の気持ちを大切にしている。本人の思いや希望を会話の中でみつけ、あくまでも本人が納得して決めていただくように支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースを大切にしている。食事の後、ベッドで休みたい人、テレビやパズルをされる人、その人の気持ちを大切にしている。ドライブ・外食に出かける時も本人の希望を聞いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 美容室には2ヶ月に1回程度利用している。毎朝化粧されたり、アクセサリーを身につけられる人、毎日洋服を変えられる人もおられます。また、毎月1回メイクセラピーの日を決めたり、あまり関心のない人にも身だしなみには気をつけられるよう支援を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は直営の厨房で用意していますが、ご飯・味噌汁やお吸い物、カレー、おやつはホームの方で作っています。おやつ作りは一人でも多くの人に手伝っていただき、役割が持てるよう支援を行っています。気分転換もかねて外食にも出かけています。	
			(外部評価) 食事は、施設全体の厨房で管理栄養士の献立で調理しており、ご飯や汁物、カレー、おやつなどは事業所で作っている。季節の催しやクリスマス会などの行事食も取り入れ、食べたい物や好みの物などの希望を聞き、回転寿司など外食を楽しんでもらえるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ケアチェック表で個々の食事量・水分量を把握している。食事量が減った人には食事形態を変えたり、主治医・家族様と相談しながら支援を行っている。水分量の少ない人は、飲み物の種類を替え、プランにあげて少しでもたくさん飲んでいただくよう支援を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 起床時や毎食後の口腔ケアを行い、終わったらコップと歯ブラシを良く洗浄し、乾燥機にかけて感染予防に努めている。歯や入れ歯の調子が悪いときは訪問歯科を利用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄リズムを把握し、声かけを行っている。気持ちの良い排泄がトイレで行えるよう自立に向け支援を行っている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの状態に合わせて、なるべく自然に排泄できるよう支援している。トイレ誘導時には利用者に対する言葉遣いに十分気をつけている。おむつを使用している日中はトイレで排泄できるよう努めている。夜間のポータブルトイレの使用や、便秘対策として水分量をこまめにチェックするなど配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) チェック表で排便を確認している。便秘の人には水分量（目標1500cc）、歩行練習、朝の体操等をプランに入れ取り組んでいる。他の利用者の方も水分・体操・歩行練習を行い、予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 健康状態に異常のない方はいつでも入浴ができるようにしている。個室なので職員が見守り、介助を行いゆっくりお話ししながら入浴をさせていただいている。 入浴を嫌がる人は、違う日にしたり時間帯を変更するなどご本人様の気持ちを大切に、入浴をさせていただいています。 入浴中はくつろいでいただけるよう支援をおこなっている。	
			(外部評価) 週2回入浴できるよう支援しており、希望があれば3回の入浴も可能である。入浴介助は1対1で対応し、普通浴槽でゆったり過ごしてもらえるよう努めている。入浴を嫌がる利用者には、時間をおいて声をかけたり、トイレに行った時に入浴を勧めるなどの工夫をし、無理強いない入浴支援ができています。利用者の身体状態に応じシャワー浴やリフト浴での対応も行うなどの配慮もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の希望で昼寝をしたい方は休んでもらっています。夜もテレビが観たい人は21時ごろまで観て、それから休まれる方もいらっしゃいます。夜間は皆さん良く休まれています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬については主治医や看護師から指示があったり、申し送りノート等で確認し、周知徹底している。薬情もいつでも見られるようにしている。誤薬・飲み忘れがないよう2人でチェックを行い、本人にも確認をしてもらっている。最後にもう一人が再度チェックを行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の生活の中で自分でできることはしていただき、少しでも自分の役割が持っているよう支援を行っている。外食・ドライブ等外出の機会を多くとり、また共同作品展に向け工作・習字・生花クラブ等に取り組み、気分転換を図っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出の機会を出来るだけ多く取り入れたり、家族様の協力で家に帰られたり、食事に行けるよう支援を行っている。「貴方の夢、叶えます」で、一人ひとりの気持ちを聞きながら家族様の協力もあり、一つ一つ実現している。 (外部評価) 紅葉狩りや花見など月2回利用者に外出を楽しんでもらえるよう支援している。施設全体で送迎車や運転者がいるため、利用者のほとんどが外出できている。それ以外にも希望があれば、買い物や外食等その都度対応したり、家族とお墓参りや外食に出かけることもできている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一緒に買い物に行き、自分で支払いが出来るよう支援を行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人希望で家族に電話をかけられる場合は取り次ぎを行ったり、家族にハガキを出したいと希望がある方には支援を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関・廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関・ダイニングルームには家庭的で、落ち着いた雰囲気になるよう配慮している。さりげなく季節感を感じられるような植物や手作りの飾りを身近に置いている。 入居者が集まりやすいようにソファ等を置いて、皆でテレビやお茶の時間を楽しんでいる。</p> <p>(外部評価) 事業所の玄関を入ると両サイドにユニットがあり、リビングは広くゆったりしており、利用者はソファに座ったり、テーブル席に着いたり自由に過ごしている。カラオケの好きな利用者が多いため曲数も充実させていたり、屋外に施設全体のジャグジー付きの足湯や、トイレには手すりや前傾姿勢がとれるレストテーブルを設置するなど配慮している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ダイニングルームでは自分の安心できる場所が決まっている。テレビを見たり、脳トレをしたり家族様との会話を楽しめるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 今まで使っていた寝具や家族の写真等持ち込んでいただき、少しでも家庭的でなじみのあるものがあることによって安心して暮らしていただけるよう工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 準備中や移転後しばらくは落ち着かず居室がわからなかったり、夜眠れない利用者もいたが、出入り口に花の名前を掲げて居室がわかるように工夫するなどし、今は落ち着き夜も眠れるようになっている。居室はベッドやエアコン、クローゼット、整理ダンス、洗面台等が設置されている。また、利用者一人ひとり使い慣れた家具や懐かしい家族の写真などを持ち込み、居心地の良い空間となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者様にはできることはしていただくよう声かけを行っている。建物内部は手すりがあり、段差がないので安全に歩行することができる。</p>	